

## ■ 計 報

十回生 徳田 迪夫様 14・2・7没

昭和十四年三月、豊中中学(現高校)に進まれました。神戸高等商船学校を経て日本郵船に入社され、七つの海を航海士・船長として航海され、現役生活後は船乗り最高役職の専務取締役として経営に参画されました。勇退後は、社団法人・海洋会(東京・神戸両商船大学OB会)会長として平成十五年まで八年間務められ、その後は港湾内の船舶の水路を案内する有資格者(水先案内人)団体で後進の指導に当たられた「海の男」の人生でした。会誌創刊号に白い看板と題して豊中への思い出の徒歩通学路と、船上での朝日新聞にも載った楽しいエピソードを残されています(千里山会HPでもご覧頂けます。<http://homepage3.nifty.com/senriyama-kai/>)。

94年復活第一回総会から08年まで出席され、その間に監事も務められました。

八回生 武蔵 宏様 没

昭和十二年三月、北野中学(現高校)・広島高等学校(旧制)・京都大学医学部卒、生涯医業に携わられ、晩年広島府の老人介護病院長もなされました。復活第一回から出席され、96年に9飯島・10平岡氏と連名で運営基盤安定のため、募金活動の呼掛人として貢献されました。

ご連絡が途絶えていましたので遅くなりました。

(14柿崎様記)

謹んでお二人のご冥福をお祈りいたします

## 編集後記

会誌は、出来るだけ多くの会員の皆様から、いろいろの作品を寄せて頂くことを理想としております。

その意味では、今年は戦争が終わり70年で、会誌に「わたしにとつての『戦争』とは」と募集したところ、多くの方から文章をいただき感謝しております。

年配の方の戦争体験だけでなく、「戦争は画像でしか知りません」と言った若い方のご意見にも素直に肯けたのは、私自身も直接戦争体験があるわけではないことが関係している気がします。

若者が、年配者の体験談に耳を傾ける必要を感じると同時に、年配者も今の若者の戦争にたいする意見・感覚を知って欲しいと思います。

さて次回の会誌は「学校行事―運動会、遠足、修学旅行、学芸会等」について、何か書いて頂けたらと思っております。あるいは、「\*\*\*について書いて頂いたらどうか？」とのお知恵を拝借でもけっこうです。

(萩原記)